

メバル公園活力倍増プロジェクト

「第1回青果市場の移転に向けた懇話会(R7.4.23)」 委員発言概要(順不同)

潮彩市場防府魚市場跡地の活用に関する懇話会(令和6年11月27日開催)のまとめ

- ・ 客層の変化、交流人口の増加に対応できる駐車場の確保、トイレや授乳室の整備等受入体制の準備
- ・ 物流車両の増加による業務車両と訪問客(一般車両)の動線確保
- ・ バックヤードの確保(保冷施設、倉庫など)
- ・ 社会見学など子ども向け啓発スペースの確保
(一次産品の普及啓発、会議室、災害時の避難所など多目的な利用)
- ・ 資本投下の一本化による利便性の向上(野菜や魚など多種が買える)、適切な経営規模による市場整備、魚市場と青果市場の衛生管理の違い

D 委員

- ・ 魚市場跡地は水産市場と一体構造になっているので、一部を解体する際の影響は十分精査が必要。【事務局】市の技術部門の職員にもアドバイスを受ける。
- ・ 現在の青果市場と比較し、魚市場跡地自体は狭いと思うが、倉庫などは別棟で建てるという方法もある。
- ・ 社会見学等で使える研修室、災害時の使用や水産・青果の会議ができるスペースがあるとよい。
- ・ 潮彩市場の現バックヤード(魚市場跡地の一部)の確保が必要。
- ・ 漁協が行う防府魚まつりや民間イベントで魚市場跡地を利用しているため、卸売業者の理解の上、にぎわい創出スペースがあるとよい。

G 委員

- ・ 直売所に出荷される方もかなり増えてはいるが、市場自体は必要である。
- ・ 玉ねぎなどは生産面積も拡大している。段ボールによる共販出荷や、新規就農者による販路拡大など生産者が利用しやすい市場を整備できるとよい。
- ・ 現施設の面積は必要なく、魚市場跡地で面積的には問題ないと思うが、今後取扱量が増えたときの対応も含めて、効率的な運用、適切な規模での検討が必要。

E 委員

- ・ 新たに開場するまでのスケジュールは。
【事務局】スムーズにいけばR8に設計、R9から整備、R10に完成し開場の予定。
- ・ 現在の駐車場は魚市場跡地の北側だが、青果市場を整備すれば消費者と業者の車が混同する。事故の発生を防ぐため、一方通行などの検討が必要。
- ・ 県港湾緑地の駐車場から潮彩市場へ行くには、一旦敷地外に出て再び敷地内に入ることになる。駐車場から緑地帯を通して潮彩市場に行く動線が必要。

C 委員

- ・ 市場内のコンテナは、野菜の出荷時に利用するもので、段ボールよりコストが安い。市場を整備する場合はコンテナを保管する場所が必要。
- ・ 直売所等を設置するなど、産地ブランド品も引き込めるような新たな取組が活性化につながる。
- ・ 熱中症への対応として、市場内にクーラーが効いた休憩場所があるとよい。
- ・ 他自治体の取組も参考になる。

A 委員

- ・ 市場の取引方法は相対が多いのか。【事務局】相対取引が多い。
- ・ 規模は小さくなると思うが、付属施設も含めた市場機能を移転できるとよい。
- ・ 魚市場跡地の床面が一段高くなっているので、構造的な部分も検討が必要。可能ならトラックへの受け渡し場所は一面ではなく二面取れるとよい。
- ・ 市場の卸売業者は今後どうなるのだろうか。
【事務局】防府市公設青果物地方卸売市場業務条例上、現事業者が新たな市場環境で卸売業務を行う意思があるのであれば、欠格事項等に該当しない限り、市としては許可する運びになると考えられる。

B 委員

- ・ 卸売市場が約3000㎡とのことだが、現在の使用面積はどの程度か。
【事務局】近年の出荷量だと荷捌きでの使用部分は全体の3分の1程度である。
- ・ 青果市場にあるPRルーム(調理室)機能が確保できるとよい。
- ・ (費用のことは別にして)整備される市場に2階があるのであれば、潮彩市場の2階とつなげると便利になると思う。
- ・ 東京の豊洲市場のように市場内の店舗で売られている新鮮なものが直接買えるのであれば、消費者は興味を持つと思う。

F 委員

- ・ 職場の子育て世代の職員からは、休日はメバル公園の近隣商業施設に立ち寄り、その後、公園で遊ぶということがよくあると聞いている。その人の流れが、市場に取り込めたらよいと感じている。